



平成 20 年 3 月期 第 3 四半期財務・業績の概況

平成 20 年 1 月 31 日

上場会社名 ゼビオ株式会社 上場取引所 東証第一部
 コード番号 8281 URL <http://www.xebio.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 諸橋 友良
 問合せ先責任者 (役職名) コーポレート室長 (氏名) 永見 秀樹 TEL (024)925-2510

(百万円未満切捨て)

1. 平成 20 年 3 月期第 3 四半期の連結業績 (平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 12 月 31 日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20年3月期第3四半期	105,918	8.4	7,747	2.5	8,808	2.8	6,169	21.0
19年3月期第3四半期	97,670	12.7	7,555	△2.3	8,566	1.8	5,098	△4.9
19年3月期	132,227		10,167		11,495		7,288	

	1株当たり四半期(当期)純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
20年3月期第3四半期	134	70	134	60
19年3月期第3四半期	111	31	111	14
19年3月期	159	13	158	90

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	百万円	%	円	銭
20年3月期第3四半期	131,144	83,365	63.6	1,819	19
19年3月期第3四半期	124,660	76,412	61.3	1,668	27
19年3月期	122,080	78,598	64.4	1,716	02

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
20年3月期第3四半期	283	△ 4,592	△ 1,306	20,064
19年3月期第3四半期	2,053	△ 13,560	△ 1,404	21,630
19年3月期	7,082	△ 14,517	△ 1,414	25,680

2. 平成 20 年 3 月期の連結業績予想（平成 19 年 4 月 1 日 ～ 平成 20 年 3 月 31 日）
第 3 四半期の業績は予定通り推移しており、平成 19 年 5 月 11 日に公表しました業績予想の見直しは
おこなっておりません。

3. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） : 無
(2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
(3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 有
〔(注) 詳細は、4 ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。〕

(参考)

平成 20 年 3 月期第 3 四半期経営成績等（個別）の概況（平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 12 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
20 年 3 月期第 3 四半期	百万円 82,859	百万円 6,553	百万円 7,175	百万円 4,618

	総資産	純資産
20 年 3 月期第 3 四半期	百万円 110,821	百万円 78,688

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、本日現在のデータに基づき作成したものであり、予想につきましては様々な不確定要素が内在しておりますので、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期におけるわが国経済は、これまでの緩やかな景気拡大の基調に反し、米国サブプライムローンの影響による米景気の先行き不安や円高・原油高等の影響を大きく受け、不安定な推移となりました。天候に関しては、12月後半より全国的な降雪があり、昨年 of 極端な暖冬と比較すると平年並みの気候に戻った感はあるものの、月初には暖かい日が続くなど、寒暖の差が依然見受けられる状況でもありました。また、個人消費に関しては、原油高・食品価格などの物価高騰の煽りを受け、購買意欲の冷え込みから足踏み感が強まっており、景気全体の停滞感が広がっている状況にあります。

こうした環境下、当社主力事業であるスポーツ事業につきましては、継続的な学生需要の取り込みや顧客層の広がりにより、アスレチック商品群やアウトドア商品群が引き続き堅調に推移、ゴルフ関連商品群につきましても、良好なプレー環境や女性ゴルファーの増加を背景に好調に推移いたしました。しかし一方では、天候不順による冬物衣料の不振に加え、ウィンター商品群については、降雪環境は悪くなかったものの、特に主力の北海道・東北地区において、軟調な立ち上がりとなったことから、厳しい商戦となりました。

ヴィクトリアについては、ウィンター商品群が堅調な立ち上がりを見せたことに加え、一般スポーツ及びゴルフ関連商品群が共に都心型スポーツ店舗を中心に数字を伸ばしたこともあり、好調に推移いたしました。引き続き、一般スポーツ商品群の構成比率を高め、通期安定的な商品構成を進めると共に、客層の深堀に加え、収益性の高い店舗への入れ替え（スクラップアンドビルド）を積極的に行っていくことで、質を伴った業容の拡大を目指してまいります。

ネクスト事業部門は、残暑の影響と12月初めの高温もあり、お客様の購買モチベーションが読みづらい期間となりました。継続的な商品MDの改善やライセンス商品による商品構成の補完が進んだこと、また、会員様を中心とした優待セールsの販促効果もあり、キッズ・レディスは全般的に堅調に推移いたしました。コート・アウター関連等の重衣料は苦戦をいたしました。

クレジットカード事業については、年間を通して最も客数・客単価の高まる同期間において、積極的な会員獲得キャンペーンを実施した結果、平成19年12月末現在の会員数は約28万名となりました。同時に、カード利用によるメリット訴求を目的とした戦術面を強化した結果、カード利用率の向上含め改善効果が現れてきており、引き続き、目標とする会員数の獲得を進めると共に、事業としての収益性確保に向け努力してまいります。

店舗の状況につきましては、当第3四半期末までにスーパースポーツゼビオでは、スクラップアンドビルド1店を含む12店舗、ネクスト1店舗、ヴィクトリアゴルフ2店舗、エルブレス1店舗を出店いたしました。退店は、スーパースポーツゼビオ1店舗、ゼビオスポーツ1店舗、ネクスト1店舗、ヴィクトリアゴルフ3店舗となりました。ゼビオとヴィクトリアの共同出店2例目となるトレッサ横浜店を12月に開店し、スーパースポーツゼビオ、ヴィクトリアゴルフ、エルブレスの3業態の融合による相乗効果の創出を通じ、客層の拡大と首都圏における新たな業態の確立を目指しております。

これにより、第3四半期末におけるグループの店舗数は203店舗となり、売場面積は前連結会計年度末に比べて10,765坪増加して117,259坪となりました。

これらの結果、当第3四半期の売上高は105,918百万円（前年同四半期比108.4%）、経常利益は8,808百万円（前年同四半期比102.8%）、四半期純利益は6,169百万円（前年同四半期比121.0%）となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

①財政状態（連結）の変動状況

当第3四半期における総資産は、前年同四半期末に比べ6,484百万円増加し131,144百万円となりました。出店による設備投資などにより現金及び預金は1,566百万円減少し、20,564百万円となりました。たな卸資産が新店の増加等により1,409百万円増加し37,738百万円となったことなどから流動資産は5,270百万円増加し71,251百万円となりました。また、有形固定資産は86百万円減少し31,672百万円となり、固定資産は1,214百万円増加し59,893百万円となりました。

流動負債は、支払手形、支払信託及び買掛金が824百万円増加したことなどにより前年同四半期末に比べ1,980百万円増加し43,858百万円となりました。固定負債は負ののれん、退職給付引当金の減少などにより2,449百万円減少し3,920百万円となりました。また、純資産の部は、前年同四半期末に比べ利益剰余金が6,986百万円増加したことなどにより83,365百万円となりました。

②連結キャッシュ・フローの状況

当第 3 四半期における現金及び現金同等物の期末残高は、前連結会計年度末に比べ 5,615 百万円減少し、20,064 百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、283 百万円となりました。これは、税金等調整前四半期純利益 9,490 百万円、たな卸資産の増加による資金 6,680 百万円による支出、仕入債務の増加 5,601 百万円による収入、売上債権の増加 4,449 百万円による支出及び法人税等の支払額 3,771 百万円の支出などによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、4,592 百万円の支出となりました。これは、新規出店に伴う有形固定資産の取得による支出 3,722 百万円、敷金・保証金の差入による支出 1,689 百万円などが主な要因であります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、1,306 百万円の支出となりました。これは、配当金の支払額 1,369 百万円などが主な要因であります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第 3 四半期は前第 3 四半期と比較して、売上高、利益共に増加いたしました。当初の計画通り推移しており、通期の業績予想に変更はありません。

4. その他

(会計処理の方法における簡便な方法の採用)

法人税等の処理は、法定実効税率をベースとした簡便な方法を採用しております。

また、その他影響額の僅少なものにつき、一部簡便な方法を採用しております。

(最近連結会計年度からの会計処理方法の変更)

有形固定資産及び賃貸不動産の減価償却の方法

法人税法の改正（(所得税法等の一部を改正する法律 平成 19 年 3 月 30 日 法律第 6 号)及び(法人税法施行令の一部を改正する政令 平成 19 年 3 月 30 日 政令第 83 号)）に伴い、平成 19 年 4 月 1 日以降に取得した有形固定資産（附属設備以外の建物を除く。）及び賃貸不動産については、改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

5. (要約) 四半期連結財務諸表

(1) (要約) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円、%)

科 目	前年同四半期末 平成19年3月期 第3四半期末	当四半期末 平成20年3月期 第3四半期末	増 減		(参考) 前期末 (平成19年3月期末)
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
(資産の部)					
I 流動資産					
1 現金及び預金	22,130	20,564	△ 1,566	△ 7.1	26,180
2 受取手形及び売掛金	4,657	8,110	3,453	74.1	3,667
3 営業貸付金	—	1,269	1,269	—	470
4 たな卸資産	36,328	37,738	1,409	3.9	31,057
5 その他	2,864	3,568	703	24.6	2,784
流動資産合計	65,981	71,251	5,270	8.0	64,159
II 固定資産					
1 有形固定資産	31,759	31,672	△ 86	△ 0.3	29,765
2 無形固定資産	1,063	973	△ 89	△ 8.4	1,075
3 投資その他の資産	25,856	27,247	1,391	5.4	27,079
(1) 差入保証金	9,732	9,480	△ 251	△ 2.6	9,693
(2) 敷金	9,667	10,478	810	8.4	9,718
(3) その他	6,456	7,288	832	12.9	7,667
固定資産合計	58,678	59,893	1,214	2.1	57,920
資産合計	124,660	131,144	6,484	5.2	122,080
(負債の部)					
I 流動負債					
1 支払手形、支払信託及び買掛金	34,435	35,260	824	2.4	29,658
2 未払法人税等	1,118	1,139	21	1.9	2,021
3 賞与引当金	219	241	22	10.1	559
4 役員賞与引当金	7	7	0	0	10
5 ポイントサービス引当金	1,945	1,849	△ 95	△ 4.9	1,840
6 その他	4,151	5,360	1,208	29.1	4,033
流動負債合計	41,877	43,858	1,980	4.7	38,123
II 固定負債					
1 退職給付引当金	1,434	744	△ 690	△ 48.1	1,427
2 役員退職慰労引当金	67	42	△ 24	△ 36.6	71
3 事業再構築引当金	845	—	△ 845	—	—
4 負ののれん	3,242	2,377	△ 864	△ 26.7	3,026
5 その他	779	755	△ 24	△ 3.1	833
固定負債合計	6,369	3,920	△ 2,449	△ 38.4	5,358
負債合計	48,247	47,778	△ 468	△ 1.0	43,482
(純資産の部)					
I 株主資本					
1 資本金	15,935	15,935	0	0	15,935
2 資本剰余金	16,086	16,108	21	0.1	16,086
3 利益剰余金	48,239	55,226	6,986	14.5	50,430
4 自己株式	△ 4,033	△ 3,994	38	△ 1.0	△ 4,036
株主資本合計	76,229	83,275	7,046	9.2	78,416
II 評価・換算差額等					
その他有価証券評価差額金	183	90	△ 93	△ 50.8	182
評価・換算差額等合計	183	90	△ 93	△ 50.8	182
純資産合計	76,412	83,365	6,953	9.1	78,598
負債、純資産合計	124,660	131,144	6,484	5.2	122,080

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(2) (要約) 四半期連結損益計算書

(単位：百万円、%)

科 目	〔前年同四半期 平成 19 年 3 月期 第 3 四半期〕	〔当四半期 平成 20 年 3 月期 第 3 四半期〕	増 減		(参考) 前期 (平成 19 年 3 月期)
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
I 売上高	97,670	105,918	8,247	8.4	132,227
II 売上原価	60,848	65,608	4,759	7.8	82,606
売上総利益	36,822	40,310	3,487	9.5	49,620
III 販売費及び一般管理費	29,267	32,562	3,295	11.3	39,453
営業利益	7,555	7,747	192	2.5	10,167
IV 営業外収益	1,701	1,740	39	2.3	2,238
V 営業外費用	689	680	△ 9	△ 1.4	909
経常利益	8,566	8,808	241	2.8	11,495
VI 特別利益	200	803	603	300.4	1,053
VII 特別損失	551	121	△ 429	△ 78.0	1,402
税金等調整前四半期 (当期) 純利益	8,216	9,490	1,274	15.5	11,146
税金費用	3,117	3,320	202	6.5	3,857
四半期 (当期) 純利益	5,098	6,169	1,071	21.0	7,288

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(3) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

区 分	前年同四半期 平成 19 年 3 月期 第 3 四半期	当四半期 平成 20 年 3 月期 第 3 四半期	(参考) 前期 (平成 19 年 3 月期)
	金 額	金 額	金 額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前四半期（当期）純利益	8,216	9,490	11,146
減価償却費	1,598	2,043	2,297
減損損失	80	—	631
負ののれん償却額	△648	△648	△864
売上債権の増加額	△2,042	△4,449	△1,052
営業貸付金の増加額	—	△798	△470
たな卸資産の増加額	△6,295	△6,680	△1,024
仕入債務の増加額	5,742	5,601	966
その他	△600	△525	△571
小 計	6,052	4,031	11,058
法人税等の支払額	△4,037	△3,771	△4,014
その他	39	23	38
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,053	283	7,082
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
定期預金の預入による支出	△4,500	△500	△1,000
定期預金の払戻による収入	4,500	500	1,000
有形固定資産の取得による支出	△13,232	△3,722	△15,612
有形固定資産の売却による収入	—	—	1,929
無形固定資産の取得による支出	△448	△126	△883
敷金・保証金の差入による支出	△1,095	△1,689	△1,529
敷金・保証金の返還による収入	1,250	1,006	1,663
その他	△33	△60	△84
投資活動によるキャッシュ・フロー	△13,560	△4,592	△14,517
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
自己株式の取得による支出	△38	△5	△41
自己株式の売却による収入	0	69	0
配当金の支払額	△1,366	△1,369	△1,373
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,404	△1,306	△1,414
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	11	—	0
V 現金及び現金同等物の減少額	△12,898	△5,615	△8,849
VI 現金及び現金同等物の期首残高	34,529	25,680	34,529
VII 現金及び現金同等物の期末残高	21,630	20,064	25,680